

5月11 - 15日週のポンド円レビュー

May 18, 2009

ポンド円軟調、弱気なインフレ報告が影響

High : 150.51 円 Low : 143.39 円

Close : 144.48 円

ポンド円は 143.39 円まで下落。RICS 住宅価格や製造業関連指標、さらに 4 月雇用統計は、英国の景気悪化鎮静の可能性を示す結果となった。しかし、先週末まで見られていた、リスク資産買いの動きに調整が入り、ドルと円が主要通貨で全面的に反発した。さらに、英中銀 (BOE) 四半期インフレ報告では、今年の成長率見通しが下方修正され、景気回復には時間がかかることが示されたことも、ポンド売りにつながった。

5/11 (月) 147.38 円

先週末まで見られていたリスク資産買いの動きに調整が入ったことを受けて、ポンド円は 146 円後半まで下落した。

5/12 (火) 147.28 円

改善が期待されていた英国経済指標は軒並み市場予想を上回る結果となった。一旦は買いが強まる場面も見られたが、世界の株式市場が軟調に推移するなかで、これまで積み上げられてきた円売りポジションの調整が入る形となり、146 円前半まで下げた。

5/13 (水) 144.45 円

英中銀 (BOE) インフレ報告において、今年の成長率見通しが下方修正され、景気回復には時間がかかるとの見通しが示されたことなどを材料に、ポンド円は 144.21 円まで下落した。

5/14 (木) 145.97 円

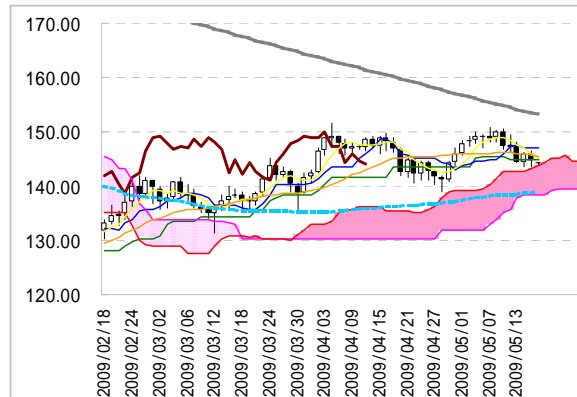
日経平均をはじめ、アジア株式市場が軟調に推移するなか、リスク許容度の低下にともないポンド円も売りが先行し、一時 143.39 円まで下落。しかし、欧米市場で株価が持ち直し、146 円前半まで反発した。

5/15 (金) 144.48 円

ポンド円は欧州勢参入後に発表された独 GDP の結果が予想を下回ったことでユーロ売りが活発化したことにつれて、143 円半ばまで下落した。

月日	High	Low
5/11 (月)	150.51 円	146.77 円
5/12 (火)	149.49 円	146.33 円
5/13 (水)	148.10 円	144.21 円
5/14 (木)	146.15 円	143.39 円
5/15 (金)	146.46 円	143.56 円

ポンド円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

153.12 (200 日移動平均線)

151.53 (4 月 6 日高値 = 年初来高値)

==== 先週末の NY クローズ 144.48 円 =====

138.43 (日足一目均衡表・雲の下限)

135.74 (3 月 30 日安値)

英国の重要指標結果

5/12 (火) [結果] (前回)

4 月 RICS 住宅価格 [-59.9%] (-72.1%)

3 月貿易収支 [65.89 億ポンドの赤字] (68.34 億ポンドの赤字)

3 月鉱工業生産 [-0.6%] (-0.8%)

3 月製造業生産 [-0.1%] (-0.3%)

4 月失業率 [4.7%] (4.5%)

4 月失業者数 [+5 万 7100 人] (+6 万 5500 人)

5/13 (水) [結果] (前回)

英中銀四半期インフレ報告は成長見通し下方修正、景気回復には時間がかかるとの見通し示す。

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 138.43 - 151.53 円

英経済指標は市場予想こそ大きく上回ったものの、積極的に買い上げていくには力不足の観が否めない。さらに、英中銀 (BOE) インフレ報告が弱気なものとなったことは、ポンドにとってネガティブ要因そのものであり、引き続き上値の重い展開が見込まれよう。